

継承する出雲神楽

おおどち

大土地神楽

ふかの

深野神楽

# 神楽公演

平成30年

# 1.7

[日曜日]

島根県民会館 中ホール

(松江市殿町158番地)

開場 13:30 開演 14:00

大土地神楽保存会神楽方

(出雲市大社町)

【八千矛(やちほこ)・荒神(こうじん)】



深野神楽こども教室

(雲南市吉田町)

【清目(きよめ)・八俣大蛇(やまたのおろち)】



深野神楽保存会

(雲南市吉田町)

【国譲(くにゆずり)】



同時開催 【出雲神楽ミニ講座】◎演目の合間に、簡単な神楽講座を企画しております。

入場料金 全席自由	前売	一般 1,000円	高校生以下 500円
	当日	一般 1,500円	高校生以下 500円

チケット発売日 平成29年11月18日(水)

- 未就学児膝上鑑賞は無料。但し、座席が必要な場合は有料。
- 前売券完売の場合、当日券の販売はございません。
- 託児あり。要予約12月27日(水)締切。

- ◎【松江市】島根県民会館チケットコーナー、プラハホール、今井書店グループセンター店
- ◎【出雲市】出雲市民会館、出雲弥生の森博物館、今井書店出雲店
- ◎【雲南市】雲南市加茂文化ホール ラメール、雲南市木次経済文化会館 チェリヴァホール
- ◎【米子市】米子市文化ホール

主催／島根県、(公財)しまね文化振興財団 共催／出雲市 補助／平成29年度文化庁「文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業」

お問合せ先 島根県民会館 0852・22・5502

よすみのグッズも販売するよ

催し 当日は販売コーナーもあります

- 「日が沈む聖地出雲〜神が創り出した地の夕日を巡る〜」パネル展示
- 出雲市・雲南市の特産市
- 出雲弥生の森博物館のグッズ販売

出雲弥生の森博物館  
マスコットキャラクター  
よすみちゃん





おみどろ ふかの  
大土地神楽・深野神楽 「日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～」の  
神楽公演 日本遺産認定記念公演を開催!

この日本遺産に登録された二十三の構成文化財のうちの一つ、「大土地神楽」。

そして子どもの神楽教室を精力的に行い、後継者の育成に力を入れる「深野神楽」を共演者に迎え、二組の出雲神楽をご紹介します。

土地の風土を反映した、独特な舞ぶり、音色をぜひご堪能ください。

※「日本遺産 (Japan Heritage)」は、地域の歴史的魅惑や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産 (Japan Heritage)」として文化庁が認定するもの。「日が沈む聖地出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～」は、出雲市が申請したもので、島根半島西端の出雲の海岸線を夕日の聖地として捉え、出雲神話にちなんだ神社や登場地を、構成文化財として23か所登録している。

### 〔演目紹介〕

#### 大土地神楽保存会神楽方

やちほこ

## 八千矛

大國主大神(おおくにぬしのおおかみ)が、出雲の国を平和にするため活躍された若い頃の物語で、そのときの名前を八千矛神(やちほこのかみ)と言います。まだ出雲の国が平和でなく、戦いを繰り返しているところ、悪事を働いていたのが、八千矛神の兄神である八十神(やそがみ)とその子分達でした。そこで、この兄神達をこらしめ、人々が安心して暮らせるようにと、八千矛神は弓矢や刀を持って戦われ、ついに八十神達は降参して、出雲の国が平和になるまでを描いたものです。

こうじん

## 荒神

この神楽は、天照大神(あまてらすおおみかみ)の勅命により、武甕槌神(たけみなかつちのかみ)と経津主神(ふつぬしのかみ)の二つ神が、出雲の国を譲り受けようと、大國主大神(おおくにぬしのおおかみ)を訪ね、稲佐の浜で談判の結果、大神は出雲の大社を造ることを条件に承諾されます。しかし、その子、武御名方神(たけみなかたのかみ)は話し合いだけでは納得がいかず、力比べを申し出られ戦われますが、ついに長野の諏訪まで後退され、大國主大神の言われる事に従われます。そして、その武勇に感心した天照大神は、諏訪の社を造られ、武御名方神がこの地方を守っていくまでを描いたものです。

#### 深野神楽保存会

くにゆずり

## 国譲

大國主命(おおくにぬしのみこと)が天照大御神(あまてらすおおみかみ)の御詔に従って、国土を天津神に献上されるという神話を神楽にしたものです。

天照大御神の使いとして、高天原(たかまがはら)から天下られた武見雷槌命(たけみかつちのみこと)と大國主命が、稲佐の浜において国土献上について話し合われました。その結果、大國主命は御子神、事代主命(ことしろぬしのみこと)共々、国土を献上される事になりました。しかし、気性の猛々しいもう一人の御子神、健御名方神(たけみなかたのかみ)は承服されず、力を持って立ち向かわれましたが、使いの神には勝てず「われを助け給うなれば親子もろとも皇孫に従いまつらん」と国土を献上することに賛成されました。このことに感謝された天照大御神は大國主命には出雲へ、事代主命には美保関へ、健御名方神には信州諏訪の地にとそれぞれ社を建て、その志に報いられました。それが現在の出雲大社、美保神社、諏訪神社です。

#### 深野神楽こども教室

きよめ

## 清目

神楽の奉納にあたり一番最初に舞う神楽で、神々にご降臨いただくために、神楽殿の舞殿をはじめ神楽団員、一般観覧者を祓い清めて、神楽舞を滞りなく繰りひろげるための最初の大事な儀式舞です。前段は大幣を持って、後段は扇と小幣を持って舞います。

やまたのおろち

## 八俣大蛇

乱暴な行いをされたため、高天原(たかまがはら)を追われた須佐之男命(すさのみこと)が、出雲の国簸乃川上にさしかかられた時、稲田姫(いなたひめ)を連れて嘆き悲しんでいる足名槌(あしなづち)・手名槌(てなづち)という老夫婦にお逢いになりました。悲しむわけを尋ねられた老夫婦は、八俣の大蛇が毎年現われ、すでに七人の娘が奪われ、残ったこの稲田姫もまもなく大蛇に呑み殺されてしまう事話を話されました。

命は早速この大蛇を退治することを約束され、毒の酒を造って大蛇が出てくるのを待ちになりました。やがて出てきた大蛇が、その毒の酒を飲み干し酔いつぶれて眠った隙に、十握の剣(とづかのつるぎ)をもって退治され、その尾先より天の叢雲の剣(あめのむらくものつるぎ)を得られました。稲田姫を妻に迎えられた須佐之男命は「八雲立つ 出雲八重垣妻ごみに 八重垣つくる その八重垣を」と歌をお詠みになり、宮造りをされたという神楽です。

「荒神」と「国譲」は、物語の筋書きは同様です。しかし神楽団体によって舞や楽の趣向が異なりますので、その違いをぜひお楽しみください。

平成30年

1.7

[日曜日]

開場 13:30

開演 14:00

島根県民会館 中ホール

(松江市殿町158番地)